

(補足資料)

ナチュラルハウス会員家族交流ツアー in 海士 2007
(仮称)の検討

(財)シルバーボランティア来町

- 5月11日～13日
- 理事 羽賀 慧 氏
市川 松樹氏
- 国内での支援を模索
- 新規創業支援資金
- 養豚支援



出雲・隠岐体験スクール 神話と伝説の地を訪ねる
かがやき未来塾夏休み特別版

- プログラム 7月31日(月)
出雲大社見学・荒神谷遺跡と荒神谷博物館見学
- 8月1日(火)
摩天崖ウォーク・後鳥羽上皇史跡めぐり
俳句教室・黒曜石やじり作り
- 8月2日(水)
明屋海岸 海其自然観察と海水浴・鷲ヶ峰トレッキング・
キャンプファイヤー・ウミホテル観察
- 8月3日(木)
かんこ櫓漕ぎ体験

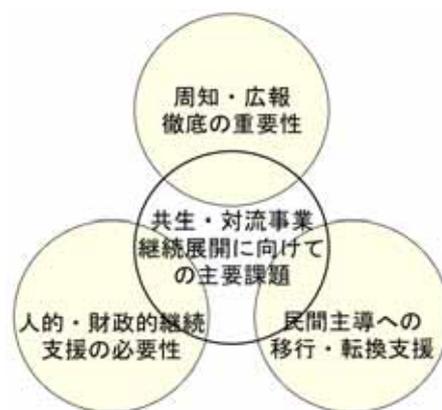
企画主催 産経新聞社 / 関西 2100 委員会 / 産経新聞厚生文化事業団
協 力 海士町観光協会 / 隠岐島後観光協会 / 隠岐空港利用促進協議会
旅行主催 クラブツーリズム

5. 主要な実施活動から見てきたものは・・・

全体として、双方参加者の意識変化が挙げられよう。例えば、観光であれば、豊かな資源・資産を目的に、サービス、人との交わりの順であるが、今回の感想を聞けば、まず、『人々』の元気を挙げ、『もてなし』やうち(親類づきあい)に感激、そして豊かな『資源・資産』に感動する。海士町の出会い、双方からの評価(WIN-WIN 構図)のキーワードをあてれば、自信×共感、自覚×享受、気付き×感動、当たり前が凄いやが浮かぶ。交流からの変化は、視野の広がり、表現力の豊かさ、コミュニケーション力、キャリア・職業体験教育等々での実感か。

発見としては、「口コミ」と「メーリングリスト」による発信/イベント(全国募集)開催と口コミツアー参加、その面白い波及力の凄さ！

図 2-1 主要課題整理概念



親類・友人知人・見知らぬ人まで連鎖反応、それでも地元には伝わっていないことの多さ。

【周知広報の工夫・徹底の重要性】また、活動継続意欲は、凄いものがある。継続の為に、双方の努力は勿論、それをつなぐコーディネーター数名の必要性を実感した。地理条件から交通の連絡と交通費の問題解消は当然。

【人的・財政的継続支援の必要性】加えて、交流事業の中から、地元若者の立ち上がり、受け皿づくり・まちづくりの核への参画意向、そして双方の活動協働継続の意欲充満【民間主導への支援】等々。元々、海士町は、「海と人」が資源。海士町にしかできない青少年の為の一貫した「特別教育機関設置」(海洋学全般と離島生活)も頭を霞める。

幾たびものAMAワゴンでやってくる20~30名の都会の大学生群、夏の時期、遠くフランスからの参加学生・アジア諸国の留学生達、この年代が極端に少ない過疎の島で、小・中・高校生により刺激を与え、彼らにも確実な変化が現れてきている。それを察知した地元の保護者の方々からも確実にこれらの活動の理解と支援の輪が広がってきている。地元の若者も目覚めてきており、受け入れ態勢も「地元の若い者でやらねば」という意識が芽生えつつある。

参加した学生・留学生達は更に、地元での各種体験事業を通じて、地元の人々との交流を深めた。その結果、数多くの海士ファンを生み出すことになり、再来島する「リピーター」も確実に増えた。

吟行ツアー参加者からも、強く、地元の人達との交流、生活体験を望む声が挙がる。

雇用の増大・定住促進が必須の海士町にとって、これらの活動の結果から、即、正常な人口構成ピラミッド形成へとは望むべくも無い。定住・2地域居住・リピーター・WEB人口の内・外『やうち』ネットワーク構築による海士町版交流連環1万人人口構成ピラミッド形成への手ごたえは掴めたような感想を持つ。

図2-2 島にはいない大学生・留学生・外国人を中心とする若者層との交流から

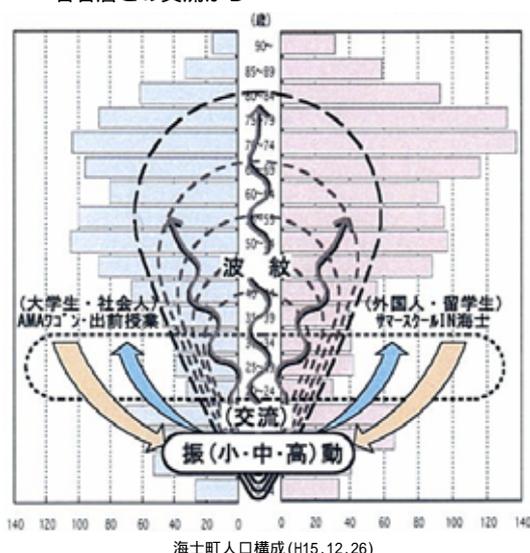


図2-3 出会い、双方からの評価(win-win構図)

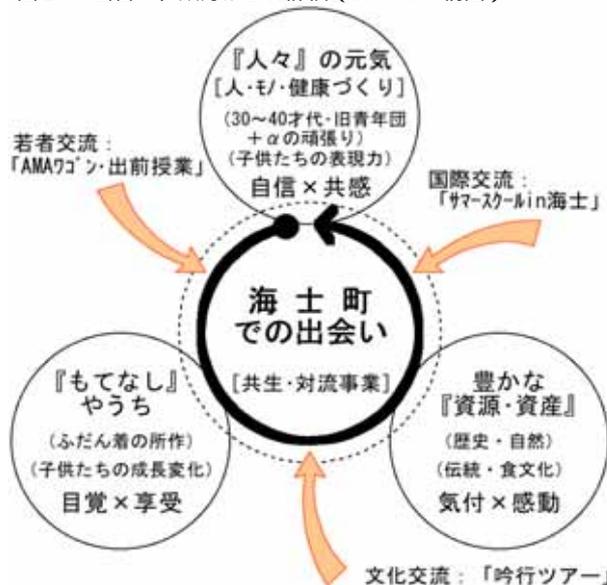


図2-4 内・外『やうち』交流連環1万人人口構成ピラミッド形成への手ごたえ

